

# 子ども 極貧 5人に1人

ユニセフ報告 世界で3億8500万人

【ジュネーブ共同＝小林義久】国連児童基金（ユニセフ）は5日、世界の子どもの5人に1人に当たる約3億8500万人が1日1・9ドル（約210円）未満の極貧状態で生活しているとする報告書を発表した。一方で社会保障の保護がある子どもは世界全体で35%にとどまっており、子どもを貧困から救うための社会保障強化が急務だと訴えた。

## 社会保障強化訴え

日本は先進国の中でも子どもの貧困率が高い水準とされ、政府の貧困対策には不十分との批判がある。

報告書は「多くの国で財政再建を理由に子どもの社会保障費をカットしている」と指摘、各国に貧しい子どもを置き去りに

しないよう求めた。

報告書は国際労働機関（ILO）との共同発表。世界の子どもの約半数が1日3・1ドル未満で生活するなど「どこでも子どもの貧困はみられる状態だ」と指摘した。特にアフリカや南ア

シアでは貧しい子どもが多く、

サハラ砂漠以南のアフリカでは子どもの約半数が極貧状態。先進国でも社会問題化しており、経済協力開発機構（OECD）加盟の27カ国で子どもの貧困率が10%を超えているとした。

報告書は子どもを児童労働の危険から救い、貧困から脱出させるためには社会保障の充実が重要だと強調。しかし社会保障には国による格差があり、欧州と中央アジアでは9割近くの子どもの保護の対象だが、アジアでは約3割、アフリカで2割未満の少なさをとした。

ユニセフ高官は「貧困は子どもに最もひどい打撃となり、その影響は生涯続く恐れもある」と指摘、各国は子どもを最優先として、全ての子どもを貧困から保護できると訴えた。